

研究課題：なぜ、日本におけるジェンダー格差の取り組みは遅れているのか？文化的背景の
解明

研究課題/領域番号：22K01546

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：筒井義郎 京都文教大学，総合社会学部，教授

(概要)

本研究計画は、日本のジェンダー格差の実態を研究し、その根本的な原因を解明することによって、改善に資することを目指す。第1に、日本とイスラエルにおいて独自のアンケート調査を実施し、昇進・職業的地位、家事労働負担、痴漢・セクハラの3つの側面において、日本のジェンダー格差の実態をイスラエルとの比較で明らかにする。第2に、日本、アメリカ、インドにおける賃金関数の推定によって、格差の大きさを把握し、国際比較する。第3に本研究計画の独自性が最も発揮される取り組みとして、日本でジェンダー差別が解消されない理由として、歴史的に形成された文化が社会における女性の位置づけに影響するという仮説をたてる。この仮説の真偽を吟味するため、アンケートにおいて、信仰心、宗派、いろいろな世界観（たとえば、民主主義への賛意、公平、公共、社会への信頼度など）を尋ね、これらと両国におけるジェンダー格差との関係を分析する。このため、本申請では、歴史及び宗教の研究者、およびイスラエルの研究者を研究協力者とする。